

至 京都・大阪・神戸

至 鳥取

国道9号

牛ヶ峰山

小豆川渓谷

上山高原

上山高原山頂

氷ノ山後那岐山 国定公園

高原エリア

○上山高原を中心としたスキ高原、ブナの森の再生

里エリア

○水田、里山、農地などの自然再生

山麓エリア

小ツツコ

大ツツコ

氷ノ山

凡例

高原エリア

里エリア

山麓エリア

3-3-3 取り組みの基本方針

上山高原及び周辺地域は、国有林のブナ林に代表されるような自然性の高い原生的自然と、ススキ草原のように絶えず人の手が加えられることにより維持されてきた二次的自然の双方が相まって、希少で多様な生物を育む貴重な自然を形成しています。

しかし、ブナ等が伐採され人工林に変わり、高原部のススキ草原も面積が減少し、全体として生物の多様性が大きく低下しようとしています。また、周辺集落の里山林や農地などが管理の放棄等により自然の質が低下してきています。

そこで、上山高原および集落周辺の自然についての貴重で多様な自然を、県民共有の財産として回復・復元・維持していくため、下記の方針に基づき様々な主体の参画と協働による取り組みを進めていきます。

基本方針

ブナやミズナラなどの自然性の高い広葉樹林と、人が手を加えることにより成立してきた草原は、それぞれに異なったタイプの動植物が生息・生育しており、全体として生物多様性を保全していくため、その双方を保全の対象とすることが必要です。

そこで、人と自然とがまだ良好な関係を保っていたと考えられる昭和 30 年代頃の状況を目指し、スギ等の人工林をブナやミズナラ等の広葉樹林へと戻すとともに、遷移が進み灌木林が侵入している草原をススキ草原へと転換していくことで、森と草原双方のバランスを図りながら、上山高原の特徴ある多様な自然を再生していくことを基本方針とします。

3-3-4 目標

上山高原及び周辺地域において、ススキ草原約 35ha を維持し、ブナを中心とした落葉広葉樹林の森約 306ha を再生することを目標に取り組みます。

■ エリア・ゾーンごとの目標

高原エリア

- ア) 草原ゾーン... 灌木・ササを伐採し、ススキ草原を復元する
ノハナショウブ等の湿地を保全する
- イ) 森林ゾーン... ブナ、ミズナラを保全する、人工林を転換する
ブナ苗を育てる

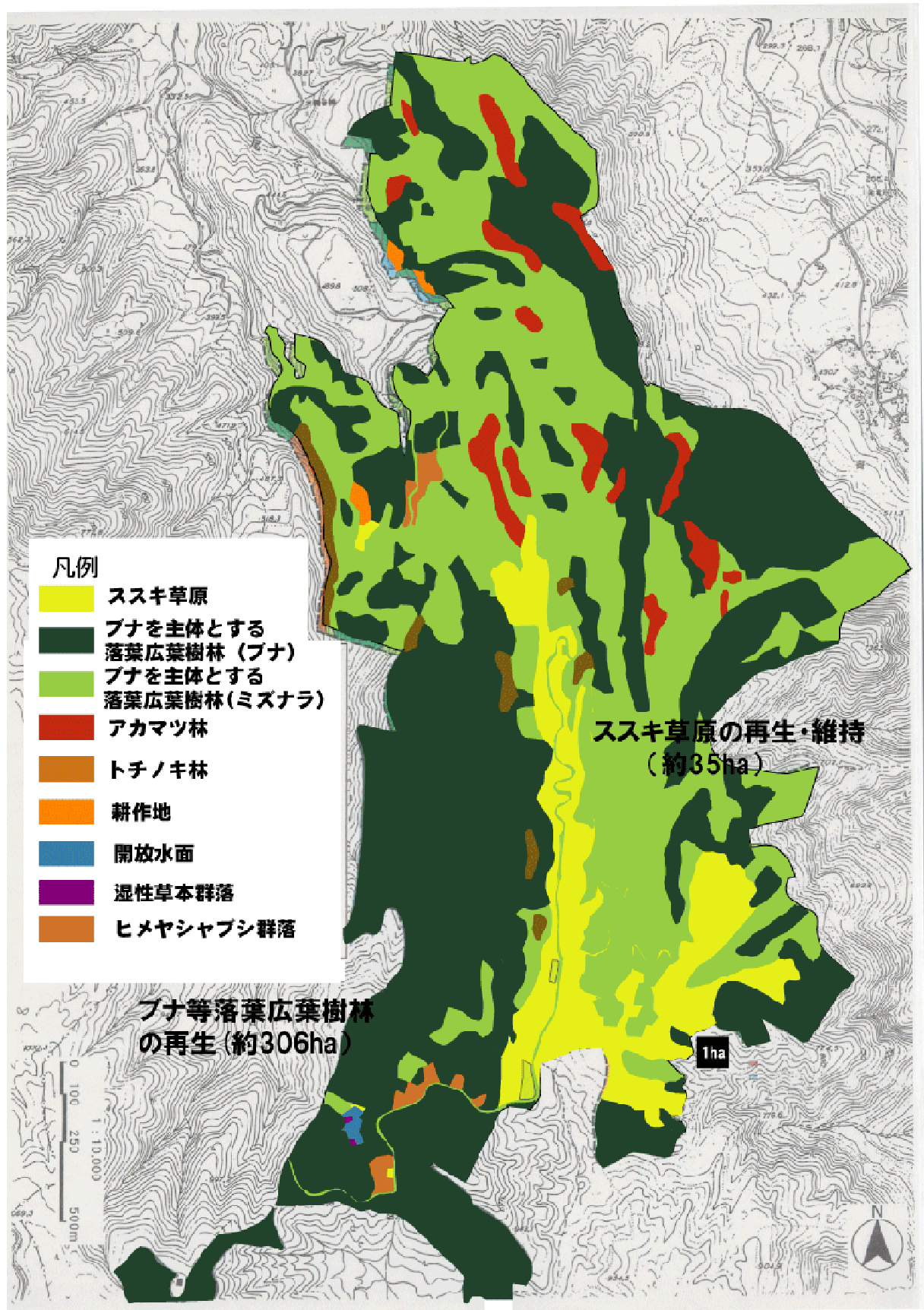
里エリア

- ア) 水辺ゾーン... 小又川溪谷など水辺の希少種を保全する
- イ) 里山ゾーン... ミズナラ林を保全する、人工林を管理・育成する
- ウ) 人里ゾーン... 農地、棚田等の自然を保全する

表 1 目標植生

	現状の植生	植生の 現状と面積	目 標		備 考
			植 生	対象面積	
草原ゾーン (60ha)	ススキ群落	上山山頂、キャンプ場跡、石碑周辺 (2.65 ha)	ススキ草原へ 推移帯へ	34.4ha	○ 沢ガの狩り場 ○ ススキ草原の景観的価値
	チマキザサ群落	上山山頂周辺 (19.79 ha)			
	ミズナラ - クリ群集ワラビ下位単位 (低木林)	上山山頂周辺 (15.37 ha)			
		集落から山頂への道沿い (14.63 ha)		6.5ha	
	ミズナラ - クリ群集タンナサワフタギ下位単位 (高木林)	集落から山頂への道沿い (2.5 ha)			
森林ゾーン (313ha)	ミズナラ - クリ群集タンナサワフタギ下位単位 (高木林)	斜面下部・谷筋 (121.75 ha)	ブナを主体とする落葉広葉樹林へ スギ林	306ha	○ ツノガマの生息地 ○ 冷温帯の生物多様性 ○ 尾根筋のミズナラ林は沢ガの餌場
	ミズナラ - クリ群集ワラビ下位単位 (低木林)	対象地南部・ブナ林を横断する形で分布 (7.48 ha)			
	ブナ - ヒメアオキ群集	東部斜面、谷、南側 (61.79 ha)			
	チマキザサ群落	南北にブナ林を横断する形で分布 (2.90 ha)			
	スギ - ヒノキ群落	分収造林地 (62.88 ha)			
		一般の人工林 (35.70 ha)			
		町有林 (約20 ha)		20ha	
	アカマツ - ユキグニミツバツツジ群落	尾根部に小面積 (12.37 ha)	アカマツ林 (極相林)	12.37ha	○ 植林地
	トチノキ - ジュウモンジシダ群落	小又川溪谷沿い (3.95 ha)	トチノキ林 (極相林)	3.95ha	○ 貴重な動植物の生息地

■ 目標植生図



■ 自然再生事業がもたらす効果の予想（短期的、長期的）

生物多様性の視点から

- ・ ススキ草原が広がることにより、全国的に希少なイヌワシの餌となるウサギ等の生息可能な空間が増加し、生息基盤が安定化します。（種の多様性の向上）
- ・ ススキ草原が広がることにより、森林性のみならず草原性の多様なチョウ、植物等が生息・生育できる環境になり、地域全体での生物多様性（生態系の多様性）が確保できます。
- ・ 長期的には、植樹したブナが広大なブナの森になることにより、ツキノワグマ等の希少な動物が生息可能な生息基盤が成立します。また、奥山の自然が豊かになることにより、集落へと下ってくることもなくなり、人との共生が良好になります。

地域の視点から

- ・ 自然再生事業により広がるススキ草原は、季節感ある景観を創り出し、地域の資源となり地域独自のアイデンティティへとつながります。
- ・ また、ススキ草原とブナの森などの資源を介して、都市部からの自然を愛する人が訪れ、交流が広がり、地域の振興へとつながります。
- ・ さらに、それらの活動を通じて、地域への誇りや大切に思う心が養われ、豊かなライフスタイルが営めるようになります。